



日本学術会議 学術フォーラム  
「危機の時代におけるアカデミーと未来」

# 日本学術会議の現状と展望

2021年2月27日

日本学術会議会長 梶田隆章

# 話の流れ

- はじめに（危機の時代とは？）
- 日本学術会議と、それが果たしてきた役割
- ブダペスト宣言と科学の役割
- 現代の学術の課題
- 日本学術会議の取り組みの方向性：
  - 科学的助言
  - 国際活動
  - 社会との対話
- ナショナル・アカデミーとしての要件
- おわりに

# 「危機の時代におけるアカデミーと未来」はじめに

## 「危機の時代」とは？

- 新型コロナウイルス（全世界で1億人以上が感染、約250万人が死亡）
- 世界秩序の新たな危機（冷戦後、世界がより一体化する期待のなか、新たな米中対立、中東情勢など多くの不安定要素）
- 人間活動の広がりによる危機（地球温暖化・気候変動、海洋プラスチック問題、...）
- 事実や真理の危機（「ポストトゥルース」、「フェイク」などの言葉で表現されてきた虚偽の蔓延）
- 科学・技術の信頼性の危機（科学的知見への根拠なき非難や科学者・専門家への不信）
- ....
- （学術会議の危機？）

✓本日は、このような危機の時代に、学術、あるいはアカデミーはどうあるべきかを考えていきたい

# 日本学術会議と、それが果たしてきた役割

## 日本学術会議の誕生

- 72年前、第二次世界大戦という世界規模の「危機」からの復興を背景に誕生。
- 昭和24年1月22日に開かれた第1回総会は、科学こそが建設されるべき「文化国家ないし平和国家の基礎」であるとして、「平和的復興と人類の福祉増進に貢献」することを宣言。
- 当初から、人文・社会科学から自然科学、そして基礎研究から応用・開発研究までの幅広い分野からなり、「科学の向上発達」と科学の国民生活への「反映浸透」のため活動。

設立当時の  
学術会議庁舎



第1回総会の写真  
(共同通信社提供)

# 日本学術会議と、それが果たしてきた役割

具体的には;

- 学術の立場から、社会や国等に向けた提言等の発出、学術の進むべき方向等についての提言等の発出
  - 日本の学術界の代表機関として世界の学術コミュニティと対話や協力関係を構築
    - Gサイエンス学術会議(G7(G8)と連携)
    - アジア学術会議を発足(2001~)
    - ....
  - 科学者のあるべき姿を提示:「日本学術会議憲章」、「科学者の行動規範」
  - 持続可能な開発目標(SDGs)、地球環境問題への取り組み
  - ....
- ✓しかし、時代の変化とともに、あるいは現代の「危機」のもとで、日本学術会議の活動のあり方は常に問い続けていく必要

# ブダペスト宣言と科学の役割

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/siryu/attach/1298594.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/siryu/attach/1298594.htm)

「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」(「ブダペスト宣言」)(\*)  
(1999年)

- 「知識のための科学」
- 「平和のための科学」
- 「開発のための科学」
- 「社会における科学と、社会のための科学」: 科学研究の遂行と、その研究によって生じる知識の利用は、貧困の軽減などの人類の福祉を常に目的とし、人間の尊厳と諸権利、そして世界環境を尊重するものであり、しかも今日の世代と未来の世代に対する責任を十分に考慮するものでなければならない

→ 学術のあり方に関する大きな示唆

(\*)世界科学会議において採択。議長は吉川弘之日本学術会議会長(当時)

「ブダペスト宣言」から20年を記念して、2019年にブダペストで第9回世界科学フォーラムが開催され、宣言「科学、倫理、そして責任」の発出：

**認識**：この20年間に、ICT、ゲノム編集、AIなど、科学研究のさまざまな分野で革新的変化が起こっている。また、気候変動などを含む環境と社会の問題と、科学に対する新たな期待がある。一方で、新しい通信手段やソーシャルメディアの台頭により変容する社会において、科学的知識は公の場において異議を唱えられることが増えている。

(1999年ブダペスト宣言の重要性を再認識したうえで；)

## 1. 世界の幸福に貢献する科学

✓ 科学の価値は、経済的繁栄への貢献だけで測れるものではない。科学は、持続可能な開発と世界の幸福に貢献することができる世界の公共財である。

## 3. 学問の自由と科学に対する人権の確立

✓ 科学の研究基盤、研究資金、トップダウン型の政策アジェンダへの依存度が高まっている時代であるからこそ、学問の自由という概念に立ち戻る必要がある。

(加えて、2. 研究の高潔さにおける世界標準の強化、4. 科学コミュニケーションの責任と倫理)



## 日本学術会議法

第三条 日本学術会議は、独立して左の職務を行う。

一 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。

- 今の時代の「科学に関する重要事項」とは？  
→ブダペスト宣言によれば、社会が抱える複雑で明確な答えのない難問に対して、科学、学術の立場から分析し、解決の方途を提示する
- 人文・社会科学、生命科学、理学・工学分野から研究者が集まる学術会議の役割が重要  
→この方向の提言活動などを今までに増して強化  
例) 科学的助言において多様な視点や俯瞰的な視野をさらに強化  
企画部・総合企画調査室(仮称)などの設置



# 日本学術会議の取り組みの方向性：国際活動

- 現代の「危機」は、ICT技術やヒト・カネ・モノの動きの拡大により世界の一体化と国家間・地域間の相互作用が極度に進んだもとで起こっている
- また人間活動の巨大化により、地球温暖化、海洋プラスチックなど全世界的な協力なくして解決ができない問題
- 他方、科学の国際化と巨大化は、多様なバックグラウンドをもった人々の有機的な結合を求めている

## →国際活動の一層の充実

例) 国際学術団体や各国アカデミーとの交流や連携をさらに強化

日本学術会議の活動・成果の海外に向けた情報発信(提言の英訳など)

# 日本学術会議の取り組みの方向性：社会との対話

- 学術や科学は人類の公共財
- 科学はその研究をする専門家だけのものではなく、すべての人々にその成果が還元されるべき
- 一方で、研究、あるいは科学がもたらし得る負の側面も
- 2019年第9回世界科学フォーラム宣言（4. 科学コミュニケーションの責任と倫理）：「科学者が、一般市民と科学に関して対話することの重要性を認識する。」、「証拠を考慮した意思決定を行い、科学・政策・実践の連携を強化する必要性を認識する。」

→ 今後、社会との対話の更なる充実

例) 双方向のコミュニケーションの強化

政府や立法府、国民への理解を深めるために広報担当部署を強化

# ナショナル・アカデミーとしての要件

日本学術会議法前文: 日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信に立って、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与することを使命とし、ここに設立される。

法の趣旨を踏まえ、前ページまで述べた日本学術会議の目指す取り組みを実現するために、ナショナル・アカデミーが備えるべき要件についても検討。ここではそのポイントを紹介

1. 学術的に国を代表する機関としての地位（世界のアカデミーが連携するなか、日本もこの連携に積極的に関わり、学術を通して世界の課題解決に貢献すべき）
2. そのための公的資格の付与
3. 国家財政支出による安定した財政基盤（アカデミーの活動は国のために国として支える必要。例えば、世界の学術機関、アカデミーとの連携には一定の経費が毎年必要。財源のために国際的枠組みへの参加が不安定なようでは国際的な信頼と発信力は得られない）
4. 活動面での政府からの独立
5. 会員選考における自主性・独立性（優れた業績と能力を持つ専門家は、専門家にしか選べないという世界共通の理解）

私たちは、これらの5原則を堅持したうえで、日本学術会議の将来の姿を検討

(参考)

# 日本学術会議と英国王立協会の年間予算・スタッフ数比較

日本学術会議



英国王立協会



年間予算

約10.5億円

※令和2年度予算

約148億5,000万円  
(約1.1億ポンド)

※ 1ポンド=135円  
※英国王立協会 2018年度決算書より

スタッフ数

50名

約225名

# 「危機の時代におけるアカデミーと未来」 おわりに

- 日本学術会議では「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(中間報告)」を12月にまとめました。今後、4月の学術会議総会にて「取りまとめ」を作成する予定にしています。
- 取りまとめ作成にあたって、学術会議会員からの意見を広く聞いて考えをまとめることは当然ですが、更に広く意見をお聞きしたいと思っています。
- 本日の学術フォーラムで様々な方々からご意見を聞かせていただけることを期待しています。
- そして、日本学術会議が日本の、そして世界の学術と社会の発展のために「より良い役割発揮」ができるようになることを期待しています。(ただし、このための経費は今まで以上に必要です。)
- 「学術を皆様のものに」、これが私たちの思いです。